

学校給食調理員として大阪市立の小学校、養護学校に勤務してきた。長年の作業負担から指曲がり症を発症し公災申請したが、認定基準によって「食数不足」として不当な公務外認定を受けた。意見陳述では認定基準による不当な判断であることを指摘するとともに、養護学校が少人数、多クラスのために食缶などの数が多くなり負担もより過重になっている点など具体的な手指負担要因について主張した。

基金の職務怠慢そのものの公務外判断を、審査会がまたしても漫然と追認するのか、その明らかな誤りを正せるのか、が注目されている。

指曲がり症について基金は、でたらめな認定基準による誤った公務外認定のみならず、障害認定における言語道断な取り扱いを続けている。指曲がり症については、障害認定基準を無視して不当に低い等級にしか認定していないのだ。

基金、支部審査会、本部審査会、すべてのレベルでの早急な「正常化」が必要だ。指曲がり症における事態は全く馬鹿げているとした言いようがない。当センターは被災者、関係労組とともに積極的に指曲がり症問題に取り組んでいく決意である。



(関西労働者安全センター)

大の原因企業であることは間違いないだろう。

ところが、にもかかわらずニチアスは、被害者と社会に対して誠実に対応しようとはしていない。隠せることはできるだけ隠し、被害者からの補償要求には応じるが、個別交渉だけに対応し、合意の存在、内容のすべてを秘密にすることを被害者側に強制している。

社内と下請会社の労災上積み補償制度の内容を秘密にし、ニチアス本体と下請・子会社の上積補償に大幅な格差をつけている。

離職被害者が加入した労働組合との団交を拒否している。

周辺住民への「救済金」制度を作りながら、周辺被害については責任を認めず謝罪もしていない。「救済金」制度の内容を秘密にしなが、支援団体との交

「金で被害者を黙らせる」

ニチアス●最大の加害企業の責任追求

● クボタ・ショックなければ闇の中

ニチアス(旧 日本アスベスト)は文字どおり日本の石綿産業を代表する企業である。工場、工事、下請、子会社で多数の石綿被害者を出し、工場周辺での被害も明らかになってきた。ただし、わかったのは2005年6月のクボタ・ショック後。クボタ・ショックがなければ、おそらくすべて闇の中に葬られていた。

ニチアス本社の公表によれば、中皮腫、肺がん、じん肺・合併症による死亡者は214名。工場周辺での新法認定者は6名である。

クボタとともに最大の石綿被害を出しているニチアス。ニチアスが生産した石綿製品を使用した分まで考えると、日本の石綿被害の最

工場周辺石綿新法認定者

(ニチアスによる→救済金支払者?)

	中皮腫	肺がん	計
死亡	3	0	3
療養中	1	2	3

ニチアスの石綿疾患・じん肺死亡数、住民健診結果

1976年～2007年3月の労災保険、石綿新法で認定された死亡数

事業所名	中皮腫 死亡	肺がん・ 合併症 死亡	死亡 計	企業の住民健診 有所見者(要経過観察) /受診者 05.7～判明分
鶴見工場	4	12	16	
王寺工場	13	32	45	21/110
羽島工場	12	22	34	49+38/468+250
袋井工場	2	4	6	6/349
結城工場	0	0	0	
工事他	17	16	33	
子会社計	8	2	10	44/175(竜田工業)
合計	56	88	144	158/1352
じん肺死亡	ニチアス、工事他、子会社		70	



ニチアス、竜田工業の石綿製品製造期間

工場名	操業年	青石綿	茶	白
鶴見	1939	64～71	39～82	39～95
王寺	1937	63～71	37～87	37～04
羽島	1943	48～71	43～91	48～03
袋井	1964	70～71	64～92	67～92
結城	1974		74～92	74～92
竜田工業	1943	51～70		66～01

渉では本人がいても同席者に委任状を要求する。

被害を発生させた責任を認めない、できるだけ補償額を節約するために被害者との直接交渉はせず、意のままに動く悪質な弁護士を交渉に当たらせている。

すべてを秘密に処理してきたクボタ・ショック以前に形成された「金を払って被害者を黙らせる」方針を、現在も継続しているというわけである。

いま、全造船、アスベストユニオン、被害者・住民団体は、ニチアスの傲慢な姿勢、手法を変えさせるべく取り組んでいる。石綿被害の責任を認めない国、これと裏表の関係にある日本一の石綿企業ニチアスとの闘いである。

● ニチアス王寺、竜田工業

クボタ・ショック後の2005年7月17日、斑鳩町にある子会社竜田工業が地元住民説明会を開き「従業員の中から多くの被害者を出してしまったが、近隣への被害は考えられない」と説明したが、直後に近隣に中皮腫死亡者がいることが報道された。現在までに竜田工業周辺の中皮腫

死亡者は、私たちが知るだけで4名、すべて女性である。

元従業員、周辺住民の健診をニチアスが無料で実施してきた結果、昨年5月段階で、周辺住民における胸膜プラークなどの有所見者は竜田工業44名、王寺工場21名を数え、元従業員の有所見者は竜田工業51名、王寺工場286名にのぼっている。

王寺町、斑鳩町の石綿取扱工場は、ニチアス、竜田工業しかない。しかし、信じられないことに、周辺被害の責任と原因を、いまに至るもニチアスは明確にしない。

こうしたなか、昨年4月にクボタが救済金制度を公表した直後の5月はじめ、ニチアスは一方的に「救済金」制度を制定したと発表、ただ、水準はクボタを大きく下回る内容で、竜田工業はさらにこれを下回るものだった。

こうしたニチアスの汚いやり方への怒りを直接の契機として、中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会奈良支部が結成された。5月21日である。

奈良支部は動きのなかった奈良県、斑鳩町に対して申し入れを

行い実態調査を要求、企業には公開説明会を要求してきた。県はようやく中皮腫疫学調査などを行うことになったが、企業は公開の場に出てこようとはしていない。

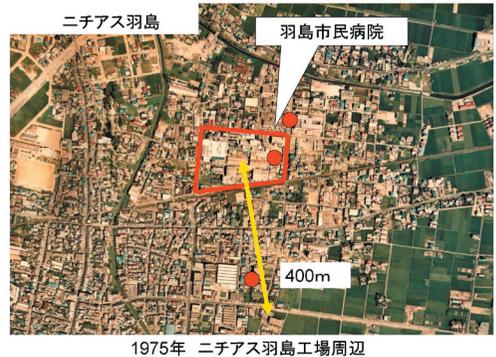
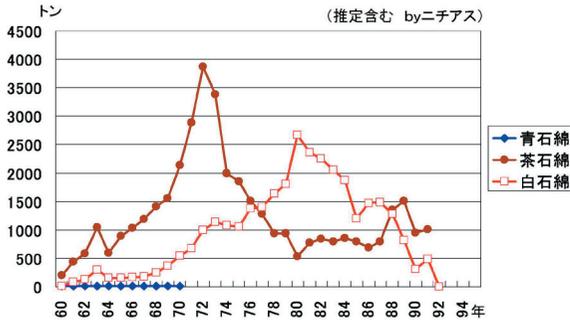
住民を上回る規模で顕在化したのが元労働者の被害だったが、城下町の両町ではなかなか表だった動きは起こっていなかった。ところが奈良支部設立の集いに参加した元従業員で健診で有所見とされた方が数名いた。

この方々の意見を出発点として全造船関東地協・早川寛事務局長などに相談の結果、9月17日に全造船ニチアス・関連企業退職者分会が結成された。

9月20日に王寺工場に団交申し入れを行い、対応に出た佐藤工場長から交渉に応じる方向で考えたいという発言もあり誠意ある対応を期待したが、その後、ニチアスは札付きの弁護士を代理人に立て、労働組合との団交を拒否してきた。

今年3月26日には、ニチアス本社への抗議行動が取り組まれたが(写真左)、ニチアスの対応に変化がないため、やむなく、4月5日、奈良県労働委員会に不当労

ニチアス羽島工場 石綿別使用量



働行為救済申し立てを行い、まもなく審査がはじまろうとしている。

● ニチアス羽島

岐阜県羽島市のニチアス羽島工場では、周辺住民健診によって87名の有所見者が確認されている。

クボタ・ショック後の秋に当初の健診で有所見者とされた方たちが「アスベストに関する地域住民の会」を結成し、今日までに活動を続けている。健診地域の拡大を実現、中皮腫など被害者の支援も行っている。患者と家族の会奈良支部は当初から住民の会と連絡をとり、情報交換をはじめ様々な面で協力を進めている。

ニチアス各工場、竜田工業の石綿取扱期間は、別表のとおりである。羽島工場の石綿別取扱量は、ニチアスによれば次のとおりで、茶石綿の使用が特徴的といえる。

住民健診での有所見者は、奈良県を上回っているが、これは、工場周辺の居住状況などによるものかもしれない。

羽島工場周辺では私たちの知る限りで、中皮腫死亡3名、療

養中2名が確認されている。至近距離にある羽島市民病院に在職した元看護師が中皮腫を発症していることがマスコミ報道されている。

周囲への石綿飛散は、周辺住民に多数の有所見者が確認されていることから明らかであり、中皮腫の原因は羽島工場からの石綿しか考えられない。

王寺、斑鳩、羽島でニチアスの石綿被害の責任を問う取り組

みが進んでおり、元労働者、住民、元住民と異なる立場の被害者が連携し、ニチアスに対していくことが重要になるなかで、安全センターもその役割を果たしていきたいと考えている。

そして、原因企業や地域を超えたすべての被害者の連帯が石綿問題の今後にとって、最も重要な課題なのである。



(関西労働者安全センター)

親会社社員と同一の補償 神奈川●子会社労働者の石綿肺がん

故宇佐美興郎さんは、若い頃、日本リンペット工事(すでに解散)で約6年間、石綿吹き付け作業に従事した。その後はアスベスト曝露の考えられない職場で定年まで勤め、2004年に64歳で肺がんで亡くなられた。

2年後のクボタ・ショック報道をきっかけに、妻の紀子さんはアスベストセンターに相談。専門医に

レントゲン写真を診てもらい、夫が「明らかな石綿肺」であったことを知って、労災申請を行い、2006年9月に業務上認定された。

紀子さんは、よこはまシティユニオンに加入し、リンペットの親会社である日本バルカー工業(本社:新宿区、石綿製品製造)と団体交渉を開始。当初、会社は、リンペットとバルカーは別法人であ